



ネギ栽培に着手した戸田達也さん(左)に訪問活動をするJA職員(右)

## 農業塾 (ネギ栽培編) 30人が受講中 新規の秋冬ネギ栽培に 5人(1.2ha)が意思表示

「農業振興計画2016」では「地域に貢献する農業活動の推進」が実践項目に掲げられており、「農業塾はこの取り組みの一つです」。「農業塾」はJA山武郡市が新たにネギ栽培を目指す方を募集したもので、今年3月に第1回講座(播種・育苗管理)を開き、ネギの栽培概要として作型や品種、必要な機械や作業場のレイアウト、経営試算までを学んでスタート。圃場実習を含め、年末までに5回の講座を計画しています。

管内の農家と農業未経験者合わせて30人が受講中であり、この中で5人が今年新たに秋冬ネギの栽培にチャレンジすることを意思表示し、作付けを開始しました。作付面積は合わせて1.2ha。販売開発部と経済センターが連携して訪問指導を行っています。が、春ネギまで作付けを拡大する意欲あふれる生産者もいます。ネギはJA山武郡市の主力品目。栽培面積は184haで県内トップクラスです。この取り組みが農家所得の向上と生産基盤の確保につながればと期待しています。

### 戸田 達也さん(42) 東金市極楽寺(東金支所管内)

抑制トマト、秋冬・春ニンジン栽培する戸田達也さんは脱サラ後、家業の農家を継いだ6年目のUターン就農者です。

東金市と八街市の境付近に畑の多くを所有し、この付近に多く作付けされるニンジンや落花生以外の作物にチャレンジしようと思案していました。「以前からネギには興味があった」と話す戸田さん。今回の農業塾に参加し、ネギ栽培に着手しました。今年秋冬ネギ10aを試験的に作付け。今作の結果を見て、次年度以降の面積拡大を検討したいと考えています。

ほかの作物の栽培もあるので、仕事分散できるように「営農なんでも相談室」に相談して指導を仰ぎたいと抱負を話してくれました。

### 職員の教育

## JA内部でも組合員への対応力強化に取り組んでいます



田植え(4月)・稲刈り(8月)を体験する若手職員

組合員・利用者のニーズが多様化・高度化する中で、出向く体制の構築と対応力向上を図るため、若手職員を対象にした「田んぼの学校」を開校しました。

「田んぼの学校」は実習田で職員が自ら、圃場の準備、肥料散布、田植えから収穫までの一連の水稲栽培管理を行い、実践的な知識を学びます。初年度となる今年の受講者は営農経済事業を担当する入組1年から5年の若手職員8人。専門性を有するJA山武郡市らしい職員を育成するための自己改革の一環です。

### 若手職員向け

#### 「田んぼの学校」を開校

職員のスキルアップと組合員への対応力を強化するため、「営農経済事業対応力向上研修会」を営農・経済事業を担当する全職員を対象に毎月1回開催しています。この研修会は月ごとに当面する業務に関する内容が企画され、営農部門、経済部門それぞれ情報共有に繋がっています。



種もみ消毒の説明を受ける参加者(2月)

### 毎月1回 営農経済担当の全職員が研修

## (農業振興計画2016の実践)

# 農家台帳システムを活用した訪問活動と地域に貢献する農業活動の推進!!



## 打ち手農家44戸を選定 農家台帳システムで訪問活動を展開



経営シミュレーションの結果から新たな提案を行う訪問活動

### 産地づくり

#### 産地実需連携米の現地検討会(7月20日)

水稲農家の所得安定と米の契約販売の強化を図るため、水稲生産者へ産地実需連携米の作付けを推奨しています。作型の異なる品種を導入することで刈り取り時期がずれ、繁忙期の作業分散が可能となります。今年には試作を含め、6品種を38人が面積104haで栽培。規模拡大を図る生産者を中心に作付けが増加しています。



JA山武郡市は平成28年に策定した「農業振興計画2016」を実践中であり、「5年後、10年後、生産者が農業に誇りを持ち、元気で、笑顔で、農業を続けている地域」を目指しています。

JAでは水稲のほか、野菜の主力品目であるネギ、ニンジン、トマトについて作付けの意向調査を行い、農家台帳システムに入力。これらのデータをもとに、今年、106戸の農家にヒアリングを実施しました。その結果から得た課題に対する打ち手(対応策)を検討し、優先的に対応すべき課題を明確にして提案を行います。今年JAとして何らかの提案ができる打ち手対象農家44戸を選定し、経営シミュレーションの結果を用いた訪問活動を展開しています。

「経営シミュレーション」に興味をお持ちの組合員の方は、「営農なんでも相談室 ☎0120-972-860」までご連絡ください。